

# 平成26年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立洛西中学校 )

## 1 平成26年度 重点評価項目

1. わかる授業の実践と教科指導力の向上(コミュニケーション能力を育成するための“言語活動の充実”)
2. 自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成
3. 基本的生活習慣の確立
4. 小中一貫教育の推進

## 2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価		
						評価日	平成26年10月10日	評価日	平成26年10月15日	
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	
1	確かな学力	基礎的・基本的学習内容の定着と徹底 わかる授業の実践と教科指導力の向上 家庭学習の習慣化	◆朝学習の充実 ◆定期テスト前及び夏季休業中の学習会 ◆校内及び小中合同での研究授業・研究協議の実施 ◆継続した宿題の実施(週末プリントも含む)	朝学習の取組状況 学習会への参加状況 ①「学校での授業はわかりやすい」、②「授業に集中して取り組んでいる」、学習確認プログラム・全国学力調査の結果 ①「宿題はきちんとできている」 全国学力調査の生徒質問紙の結果	⇒	学プロの結果を見比べると、2・3年生とも学年が上がるにつれて全市と正答率の差が縮まってきており、ある一定の成果が見られたと考えられる。3年生はほぼ全市平均と肩を並べた。 朝学習や授業は比較的落ち着いて取り組めてきたが、家庭学習には課題がある。	⇒	学力面ではある一定の成果は見られるが、コミュニケーションに課題があり、言語活動を充実させる取組が必要である。引き続き、小中学校が連携して取り組んでいきたい。 また、授業においては、本時の目標(めあて)を生徒をはっきりと示す取組が大切だと考える。 なお、家庭学習については、習慣化するよう宿題の出し方等に工夫がいる。	⇒	コミュニケーション能力の育成はどのようにして行っているのか。また、その評価方法はどのようにしているのか。 授業の中で、コミュニケーション能力の育成に繋がる言語活動を取り入れている。(聞く・読み取る・書く・話すなど) その中で、発表や聞き取りテスト、対話形式のテスト(二人一組)などを行い、評価をしている。
2	豊かな心	規範意識の向上 自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成 豊かな心の育成	◆生活確立週間等の実施 ◆非行防止教室・ケータイ教室等の実施 ◆心の居場所のある学級・学年づくり ◆生徒による学校行事の取組 ◆あいさつ運動 ◆福祉体験・職場体験等の実施 ◆道徳教育の充実	①「学校のきまりを守っている」、②「掃除をきちんとしている」、③「学校のことを大切に扱っている」 ①「学校生活は楽しく充実している」、②「学級のみんなと仲良く過ごしている」、行事を終えての反省・感想 ①「学校ではあいさつがきちんとできている」	⇒	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようすを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国調査の結果からもそれは見て取れる。 実践が伴って規範意識が向上する取組が必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	⇒	「目標や夢がある、大体ある」という生徒は60%強、「自分には良いところがあり、自信を持って生活している」という生徒は55%(大体ある・いるも含めて)とかなり低い。自己有用感や自己肯定感を育てる取組が必要である。普段の取組(授業や学校行事他)の中で「ほめる」とことや「達成感」を味あわせることが大切であり、自己有用感や自己肯定感が高まれば、規範意識の向上にも繋がると考える。また、「あいさつ」は豊かな人間関係を培うための大切なツールである。こちらからも働きかけたい。	⇒	自己有用感や自己肯定感をどのようにして育成しているのか。 声をかけると、あいさつは結構返してしてもらえる。 一人一人を大切にすることがまず重要である。 学級の居場所づくり、学級での活動や学校行事等で役割を与え、頑張りを認めたり、成就感を味あわせることで自己有用感や自己肯定感を育てている。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 身体や生命を大切にする取組の充実	◆早寝・早起き・朝ごはん ◆保健だより等による啓発 ◆性教育の実施 ◆健康・安全・防災教育の実施(薬物乱用防止教室・防煙教室含む)	①「遅くとも12時には寝ている」、②「朝食は毎日食べている」 保健だよりの発行回数 取組状況と生徒のようす	⇒	朝食はほとんどの生徒が大体はとれているが、昼食のようすを見てみると、給食を残す生徒が結構見られる。食教育に関する啓発が必要だと感じる。 また、平日に2時間以上テレビを見たリ、ゲームで遊んだり、ケータイ・スマホを使う生徒が半分以上おり、就寝時間が遅くなる原因の1つとなっている。	⇒	基本的生活習慣の確立には、地道な啓発活動と家庭との連携が必要である。 PTAの会議や学校だより、ホームページ等でも啓発していきたい。	⇒	近隣に街灯が少なく、危険な場所がたくさんある。夜遅くに見かけたら声をかけをすればよいか。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 地域の教育力の活用 情報発信の充実	◆小中が連携した取組の実施(主任会議・授業研究・研修会・オープンスクール・部活動交流他) ◆地域ボランティアによる「放課後学習会・土曜スクール」、「学校を花いっぱいにする運動」の実施 ◆積極的なホームページの更新 ◆学校だよりの発行	小中主任会やオープンスクール等の実施状況、児童・生徒・教職員アンケートの結果 取組の実施状況と生徒やボランティア・PTAの参加状況 ホームページのアクセス数 学校だよりの発行回数	⇒	小中一貫教育の取組を通じて、小中・小の連携が深まっていると感じ、連携を好意的に捉えている教職員がかなり増えてきた。児童・生徒の満足度も高い。 地域の方のお力を借り、学力向上と環境美化に取り組んでいる。放課後学習・土曜スクールでは真面目に取り組むことで成果が見られ、花いっぱい運動は、学校がきれいだというお声を耳にすることが多い。 ホームページを可能な限り毎日発信することで、昨年度と比べてアクセス数が3割程度増え、情報発信には成果が見られた。	⇒	小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を小中・小で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、引き続き継続して取り組みたい。 地域の教育力の活用では人材の発掘が重要である。また、放課後学習会等では生徒数の確保が必要であり、担任や家庭との連携が不可欠である。 ホームページについては、引き続きリアルタイムな情報発信とアクセス数を増やすための工夫を行いたい。	⇒	中学生は土・日曜日に部活動の練習や試合が入ることもあり、なかなか地域の行事に参加できない現状がある。可能な限り参加は促していく。 また、逆に学校の公開授業(授業参観)や学校行事等にご参加いただくと、生徒の活動のようすも見えていただけありがたい。

# 平成26年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

学校名( )

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日		評価日	
						評価者・組織		評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確 かな 学 力				⇒			⇒	
2	豊 かな 心				⇒			⇒	
3	健 や かな 体				⇒			⇒	
4	独 自 の 取 組				⇒			⇒	

## 4 総括・次年度の課題